

令和4年度第1回中小企業者等振興対策協議会会議録要旨

- 1 招集年月日 令和4年9月14日(水)
午後2時00分から午後3時10分(1時間10分)
オンライン開催(Zoom)
- 2 出席委員 7人
- 3 出席職員 事務局4人
- 4 会議日程
 - 1) 開会
 - 2) 産業経済部挨拶
 - 3) 委嘱状交付
 - 4) 自己紹介
 - 5) 協議事項
 - ① 今後の事業計画について
 - ② 吉野川市商工振興プレゼン大会の在り方について
 - ③ これまでのコロナ対策事業の検証と今後の取り組み
 - ④ 吉野川市チャレンジ事業支援給付金事業者へのヒアリングについて
 - 6) その他
 - 7) 閉会

5 会議の経過

【日程5 協議事項】

(1) 今後の事業計画について

- ・プレゼン大会については来年実施予定。

(2) 吉野川市商工振興プレゼン大会の在り方について

- ・この協議会として実施するのは来年度だが、吉野川商工会議所青年部や吉野川市商工会青年部で今年1度プレのプレゼン大会を実施。来年に向けてコロナ対策も含め、小規模で実施することに決定。
- ・商工会議所が主催の吉野川マルシェの12月開催時にプレプレゼン大会を行う。事務局や委員の知り合い、飛び入り参加も可で、プレゼンの場を設ける。
- ・第1回目開催時のプレゼン大会のように、地域の人が主体性をもって開催する会を実現すると、より効果的。
- ・来年度実施予定のプレゼン大会について常に広報を行い、プレゼン大会に参加したいと思ってもらうことが大事。地域が活性化するのは、意欲のある人たちが何らかの形で関わっていくことである。

(3) これまでのコロナ対策事業の検証と今後の取り組み

- ・令和3年度令和4年度に市で実施したのプレミアム商品券事業は、券の種類2種類で販売。1冊1万円分の内、半分の5,000円分は大型店舗で使えるが、残り5,000円分は地元の店舗でしか使えないという制約を設けている。換金率も令和3年度は総額に占める割合が共通店舗46%、地元店舗54%と地域経済活性化に一定の効果はあったものとする。(令和4年度も同様になる見込み)
- ・各委員よりコロナ禍の自社の経営状況の説明あり。コロナの影響は業種により差があるが、特に飲食・宿泊・旅客運送業の3業種は大きなダメージを受けている。
- ・昨年まで国のゼロゼロ制度で受けた融資のキャッシュを手元に多く持っている企業が多い。売上などキャッシュインがないと、銀行が融資し続けられないといけなくなる。
- ・コロナ禍になってから、今までの経営の仕方を少しずつ変えていき、定期的に消費者にあわせていく企業というのが生き延びている。その点では事業者の方の気づきが貴重になるので、専門家を派遣するなどフォローしていく。
- ・雇用についても、人口減少社会であるので右肩上がりでの拡大する必要はないが、今後少しずつ拡大できるように考えていく必要がある。なるべく若い人たちの考え方にふれて、考え方を考えていかなければいけない。

(4) 吉野川市チャレンジ事業支援給付金事業者へのヒアリングについて

- ・事務局より資料の説明。次回第2回協議会開催時よりヒアリングを実施。

【日程6 その他】

- ・10月16日開催第1回吉野川マルシェについての概要説明
- ・次回第2回協議会の日程について

【日程7 閉会】